

一日目は、朝は集合時間がとても早かったのですが、ほとんどのみんながきちんと集合時間までに集合できたので、さすが仙台二高の生徒だと思いました。少しだけ誇らしくなりました。

東京に着いた後、はじめに近藤玄大氏の基調講演がありました。「世界のグローバル化の中で、どう備えたら良いか？」という題でした。近藤氏は、東京工業大学出身で、在学中に筋電義手の研究をしていて、ソニー株式会社を経て exiii 株式会社を設立した方です。この後ソニー株式会社に戻るそうです。お話の中では、近藤氏が、左利きは不便で「プチ障がい者」のようなもので大変だとおっしゃっていました。その不便さから、腕のない方のために筋電義手を開発しようと思ったそうです。そして、義手が通常 1500000 円～10000000 円ほどの価格帯なので、購入するのが大変だと思い、安価な義手を開発しようと思ったそうです。そして、3D プリンターを使うことで、値段を安く抑えることに成功したそうです。モーターや基盤、センサー以外の部品は全て 3D プリンターでプリンティングされているそうです。その設計図を、インターネットで無料で世間に公開することで、義手を世界に広めていきたいとおっしゃっていました。また、近藤氏は、研究の中で義手を本物の腕に似せて作る、手がないことの「カモフラージュ」をすることに違和感を感じたそうです。だから、義手のデザインをカッコよくして、義手をつけることがファッションの一つとなり、一つの個性に、なれば良いともおっしゃっていました。「手がない」という状況をカモフラージュするのではなく、積極的に個性として発信することに斬新さを感じ、すごいと思いました。そのような発想の転換が社会で上手に生きていくには大切なのだ、と感じました。自分も頭を柔らかくし、面白く、有用な発想ができるようがんばります。

そして、近藤氏は、義手を開発する研究者、という生産者と、義手の使用者という、消費者の間の「壁」を無くすことができるようになりたいそうです。義手の製作は、映画製作のようなものであって、映画の監督がただ自分が好きなように映画を作っても、映画をみる人がみたいと思わなければ意味がないです。映画というものは、何か伝えたいことがあって作ります。映画と同じように義手も、伝えたいことがあって作るもののだそうです。つまり、義手の製作のような「ものづくり」は、「世界共通言語」のようなものであるそうです。

私も、研究者を目指しているので、そのことについてきちんと注意をしようと思いました。とても、勉強になりました。

その後、グループセッションをしました。グループセッションでは、3人の講師の方からお話を伺いました。私たちの班では、土居義範さんと近藤玄大さんと山田正実さんからお話を伺いました。

土居氏からは、「アジアにおける少子高齢化」事業の、企業活動による経済利益と社会利

益の両立や、超高齢化社会におけるインフォーマルな「地域力」の再生・活用の点から、たくさんのお話を伺うことができました。活動する地域の特産品を組み合わせ、新しい製品を創り出して、その地域の新しい特産品として売り出します。そして、それを目玉として、たくさんの人を呼ぶことが地域を活性させるのに大切だ、とおっしゃっていました。これはたとえば、経営やものづくりなどにおいても、たくさんの方に応用ができるので、自分も将来活用しようと思いました。

近藤氏には、私たちに義手の体験をさせていただきました。義手は、思ったように動き、すごいと思いました。また、高校生の私たちに、いろいろな今やるべきことなどのアドバイスをいただきました。

山田氏には、私たちが事前に送った質問に対して、とても丁寧にお答えいただきました。とても丁寧に、全員の質問の答えを用意するのは、とても時間がかかると思います。ほんとうにありがとうございました。とても参考になりました。

一日目の午後は、東京都医学総合研究所に見学させていただきました。正井久雄先生をはじめとした研究所の皆様は、とても熱心に対応していただきました。まず、研究所を案内していただき、いろいろな設備や道具を見せていただきました。その後、あらかじめ作っていただいていたテキストと、プロジェクターを使って説明していただきました。遺伝子やDNA、薬などについて分かりやすく講義をしていただきました。また、事前にたくさんの方の質問に対してとても丁寧に答えてくださりました。特に、「研究をすることは大変精神力がいると思います。研究で、心が折れそうになったことはありますか。また、あつたらどうやって立ち直りますか。」という質問の答えが印象に残りました。「研究はうまくいくことよりも失敗することのほうが多いので、いちいち落ち込んでいたら毎日やっていけません。たくさんの実験を一度に行っていたらひとつくらいはうまくゆくものがあるものです。全部失敗しても、きっとここを工夫したら次はきっとうまくゆくのでは」という切り替えというか楽観的な気持ちが重要だとおもいます。なにをやってもうまくゆかないということももちろん時にはあるでしょう。そういう時は、ちょっと実験をやめて、論文を書いてみるとか、じっくり論文でも読みながら考えてみるということもあります。もちろん、お休みをとってリフレッシュしてまた新たな気持ちでスタートするという人もいますでしょう。」と答えていただきました。自分は失敗してしまうことがたくさんあるので、この言葉を胸に刻んで次に次にとチャレンジしていこうと思います。また、「研究のやりがいは何ですか。」という質問には、「新しい発見をしたときの喜びです。また、自分で考えたことをすぐに実行できて、その結果をすぐに見ることができるのは楽しいです。だれに命令されることもなく、自由に自分の考えにしたがってしたいことをできる職業はそんなにたくさんありません。」と答えていただきました。とても詳しく、熱心に教えていただきました。本当にありがとうございました。

夜には、OB、OG 座談会をしました。先生にはできないような「ぶっちゃけたお話」を聞くことができました。また、失敗した体験や、成功した体験からくるアドバイスも聞くことができました。普段できないような体験だったので、来年、再来年もこの企画を続けていって欲しいと思います。本当に勉強になりました。

その後は、一日中、いろいろな体験があったので、とても疲れていて、解散してから直ぐに眠ってしまいました。本当に密度の濃い充実した一日でした。

二日目は、東京大学キャンパス体験会をしました。駒場キャンパスと、本郷キャンパスを見学させていただきました。

駒場キャンパスでは、キャンパス見学と、「進路を見つめ直す」をしました。キャンパス見学では、某テーマパークのような外観で、学校生活をおくるのにとっても楽しく過ごせそうでした。校地も広がったです。また、図書室は蔵書も多くパーソナルコンピューターもあり、調べものに最適だとも思いましたもし、東京大学に入ったら多くの設備がそろっているのととても勉強がはかどりそうです。

本郷キャンパスでは、理系の農学部の研究所を見学しました。とてもユニークな先生方のお話をいろいろと聞くことができました。研究室では、研究の為の設備がきちんとそろっていました。魚や貝、それに土地などたくさんのもがありました。また、FairWindの方々のお話も興味深かったです。

最後に、東京研修は、本当に勉強になりました。これからもずっとこの企画を続けて欲しいです。